

よび庶務の各担当理事で検討のうえ、案を作成することになった。

#### 8. 事務局職員の任期延長について

会計担当事務局職員の任期を1年延長することが承認された。

#### 9. IAMAP の招致について

5月の総会の席上で話ができるように次回の常任理事会で招致について決定することになった。

#### 10. 「熱帯における微気象と大気汚染に関する会議」

の後援について

1988年2月ニューデリーで開かれる上記会議について、インド気象学会からの協力依頼について、後援は行いが、財政的援助は行えない旨、通知することになった。

#### 11. 会員の新規加入について

個人会員長井嗣信ほか6名の新規加入が承認された。

## 出版情報

発行者：インド気象学会

著者：Gilbert Walke

表題：「Long Range Forecasting of Monsoon Rainfall」

価格：100ルピーまたは36米ドル、インド気象学会員は60ルピー

申込方法：直接気象学会へ

## 訂正 (お詫びして訂正いたします)

巻・号	頁	誤	正
34. 4	242 末尾	京都大学理学部	三重大学教育学部

編集後記：本誌がお手許に届けられる頃には、気象学会春季大会や気象記念日も終わり、慌ただしさも一段落というところではないでしょうか。潮来ではそろそろアヤマが咲き始め、「麦秋」の季節でもあります。しかし、最近の様に麦がほとんど輸入されるような状況ですと、この言葉も死語になってゆくのではないのでしょうか。

さて、今月号には2つの解説記事を掲載しました。1つは、最近よく話題となる炭素ガスの問題に関連して、少しこれまでとは視点を変えて、ミクロな立場からの二酸化炭素の変動測定を取り上げてみました。この話題について、長年にわたって二酸化炭素変動計を開発してこられた岡山大学の大滝氏に、その開発の経過を解説して頂きました。これを読むと、1つの計測器を開発するには、20年というような長い期間と粘り強い意志が必要

であることが認識されます。

もう1つの解説記事は、日頃あまり目に触れることのない、中国における室内実験の状況を、最近中国で共同実験を実施されてこられた京都大学の文字氏に解説して頂きました。最近の日本ではほとんど行われることのない台風の室内実験が、どちらかというと思えない実験環境のもとで精力的に行われている様子が分かります。独自の立場から、地道に気象学の研究に取り組んでいる中国の姿勢が感じられ、いろいろと教えられる所が多い内容です。また、文字氏には滞在された香河大気物理観測所の生活についても書いて頂いておりますので、両者を併せて読むと一層興味深いのではないかと思います。

(T. F.)